

2015年5月

「格差」をどう考えますか？

「豊かな日本で、食べるのに困っている子どもがいるなんて」と実態に驚く声が多かったと「格差」を取り上げている新聞にありました。私も耳学問では知っていましたが実態はわかりませんでした。「格差」にもいろいろあるそうです。（朝日新聞、シリーズ「格差問題」 2015年3月20日～28日より）

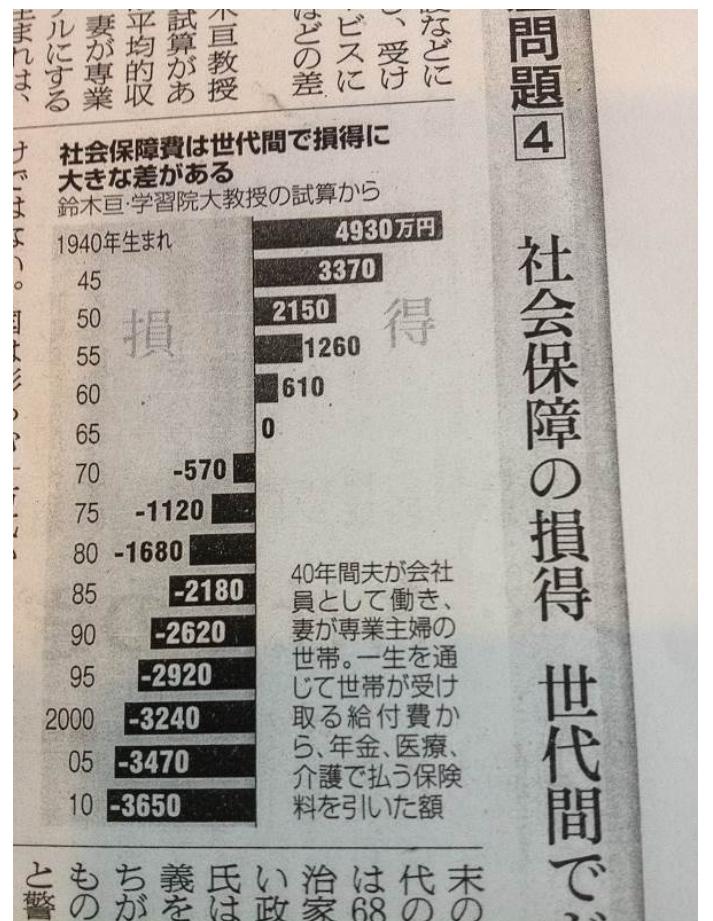
●主要国と比べた日本との格差⇒OECD平均より格差が大きく貧困率は高い



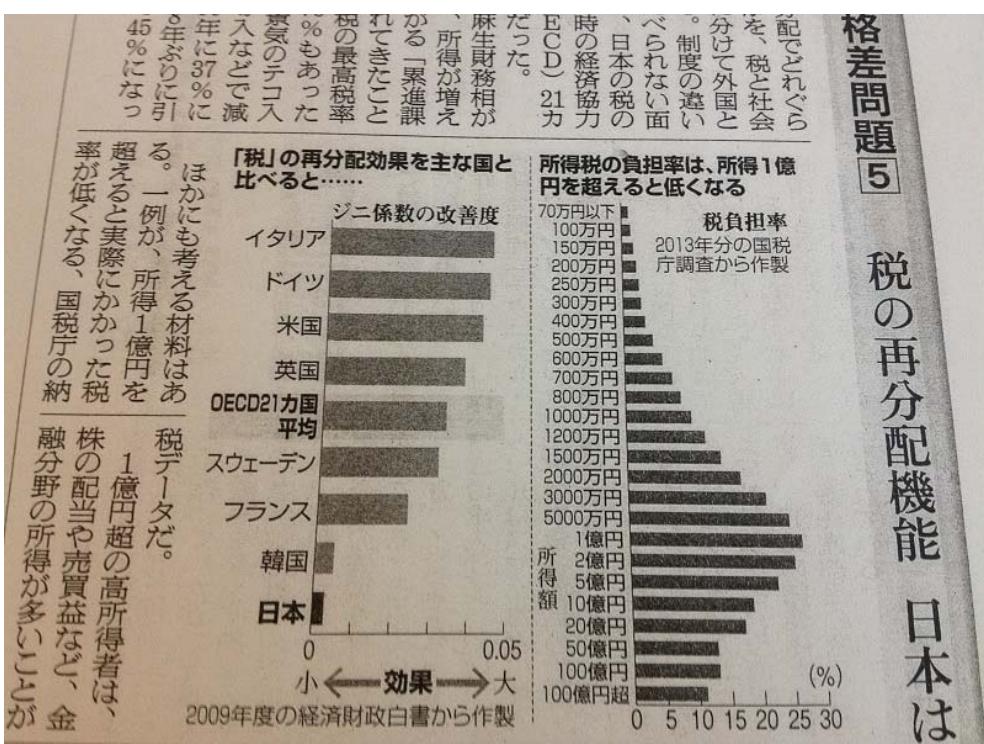
●地域格差⇒大都市と地方で所得が違う



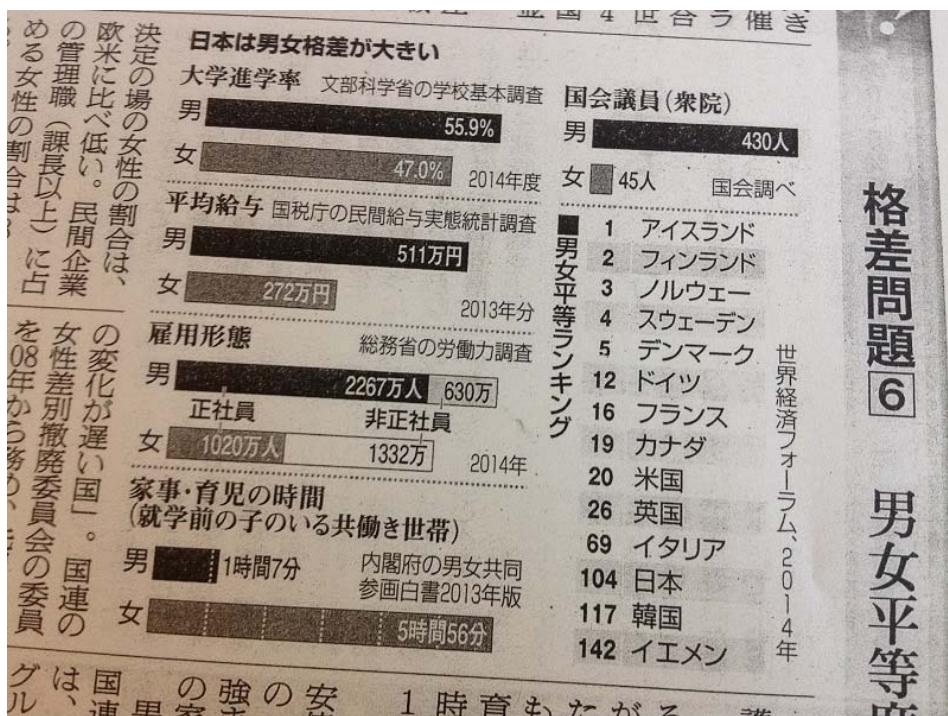
●社会保障の格差⇒世代間で大きな差がある



●税の格差⇒税の再分配機能が日本は多い



●男女格差⇒女性の就業機会が少ない



- 雇用格差⇒正社員は非正規より年収が高い
 - 教育格差⇒親の収入で学力が左右される
 - 資産格差⇒相続で格差が引き継がれる
- などなど「格差」が広がっているのは確かなようです。

日本の格差問題を長く研究してきた橋木俊詔・京都女子大学客員教授は「経済効率のためには格差はやむをえない」という考え方もあるが、『働いても仕方がない』と思う人が増えれば経済にとってもマイナスだ。貧困者が増えれば社会は不安定になるし、結果的に社会全体の経済負担は増える。」と話されています。

新聞からも私たちのまわりからも、貧困者が増え、格差が広がっているように感じます。その中でどうしたら世の中、みんなが住みやすくなるのか？

このような思いの中で、共に生きる地域社会をめざすために学び、私たちに出来ることを実践したいと考え、これから時代を担う「子どもたち」に目を向け、「子どもの貧困」を今年度の市民福祉講座の内容に取り入れました。多くの方々に受講して頂きたいと切に望みます。